組織の鈴木氏から武藤氏に對し兩
公式に通じられた
一、橫斷組合を承認する事
一、ホイツトレー氏案の工廠委員制

大木監察官の自動車
運轉手橫腹を刺さる

警官と大爭鬪の結果
卅名の逮捕で漸く解散

十八日尼崎市の勞働隊新進會から藤永田の龍工團に對して白米十俵の同情寄附があり二百名許りで運搬して來たのを同勢五百餘名の龍工團は阪神電車西野田驛附近で見に於てすかさず一瞰し去られて仕舞つたのであつた

兩陛下還幸啓

沼津御用邸に御靜養中の天皇皇后兩陛下には來る廿二日御同列車にて還幸啓あらせらるべき旨御內定あらせられたが七月上旬天皇陛下には日光に行幸相成るべしと

それを受取り車二臺に分乘して勇ましく船津橋に出で午後七時半頃西長堀宇和島橋北詰前野回送店（藤永田造船所前野芳造氏宅）前に喊聲を擧げたまゝ暫し一旦行き過て四ツ橋の東方を北に折れ更に北に曲つて新町通の丁度同店の裏に當る方向で停止して息を入れた。此日は此の米の車を輓く五百餘名の外に千五百名許りの一團が後續部隊として之に續いたので巡査と之と合するや運動を起して再び同店前に出で二千餘名一隊となり再び喊聲を擧げた、一方新町署では此の形勢を察知して全署員二百餘名を以て同店前を警戒し更に急を報じて我孫子より魚森署長の率ゐる百餘名福島より蜂田署長の率ゐる二百餘名吉田九條署長も百餘名を率ゐて驅附け本部より田口刑事課長及大木監察官目擊

「水を呉れ」と

片手に石を握つて雜貨屋の前に立つ

「水を呉れ」と片肌脫いだ龍工の一人は强かの酒と群衆心理で殺氣立つた形相に、眼を吊り上げて片手に石を持ちながら前野氏の宅より四五丁東の雜貨屋の軒に突立つたので家人は吃驚して馬穴に水を容れて持つて來るやガブ〳〵やつて「濟ぬ〳〵」を連呼して驅け出すものもあつた

而して警官隊の負傷者は新町署巡査部長久島留吉（頭部裂傷治療四週間）西內巡査（右腕）外數名合（左腕）を（同二週間）

神戸の勞働組合大會
五十名の應援を急派

此夜神戸市湊川の勸業館で第三回神戸勞働者大會が開催され定刻前貳千餘名は場外に溢れ喧噪を極めるので湊川署員が解散を命じ遂に一騒動を持上げやうとしたが幸に無事に納まつた定刻開會友愛會神戸支部の和田總平氏開會の辭を述べ行政長藏氏左の決議文を朗讀して滿場一致を以て可決

決議文

一、吾等は橫斷組合を背景としたる團體交涉機を獲得せんことを期す

二、吾等は產業民主の精神に依り勞働組合を基調とする工場委員制度の實現を期す

大正十年六月十八日
第三回神戸勞働者大會

是より演說會に入り大阪から來神した藤永田造船の職工團が交々起つて熱辯を揮つた高山義三氏・久留弘三氏、賀川豐彥氏等獅子吼を試みて降壇更に勞働の演說を爲し賀川氏再び壇上に起つて藤永田勞働爭議が遂に最後の調停案が不調に歸したるは眞に遺憾の至りなるも吾等は飽迄も團結を固くし此の際徹底的に援助する必要があると叫び出し聽衆一同之れに賛成して取り敢ず五十名の委員を選出し即つたのは十一時頃であつた、時に十時過ぎて全部が解散されたがこれは何事も無く解散した

拳銃と短刀で防戰

五百餘名鈴木氏宅に闖入

短刀を摑んで指を落した職工

午後三時頃より玉出に集まつた都合五百名は午後五時大擧して同所の藤永田造船課長鈴木氏の宅を襲ひ盛に勞働歌を高唱しながら同氏宅の垣を押し破つて屋內に闖入せんとするや豫て警戒中の警官及北組の若い者は手に手に棍棒短銃を提げて之に應戰したので龍工團は裏庭を切上げて市內に蒐集し市內の集團に加はつたが此

中腰で眞靑になつた藤沼部長

歡迎宴の最中たつた

京都から轉任早々の藤沼警察部長は各方面の挨拶に忙殺され十八日夜も博勞町魚利料亭に市內各新聞記者の歡迎宴に臨み四方山の雜談

に花を咲かし宴正に酣となり陶ベルを捲り締め中腰に立ち上り本然たることなつた矢先き加々美特高課部の自動車を驅つて警戒の準備に長からの大騒動の報に依り流石の藤沼部長も愕然色を失つてサー